

あたたかい子
かしこい子
たくましい子

学校だより

つよし

—第17号—

令和2年8月21日
戸市立津吉小学校
文責 校長 田川定司

今日は登校日、平和集会を行いました。

今日の登校日は、8月9日の長崎原爆の日に実施できなかった平和集会を行い、平和への誓いを新たにしました。集会では、「青い空は」の斉唱、そして下記のような校長講話を行い、戦争や平和への理解を深めるとともに、戦争犠牲者の冥福を祈りました。

皆さん、こんにちは。今日は、8月9日に実施するように計画していた平和集会をこれから実施します。8月9日は、長崎にとって特別な日です。今から75年前に、長崎市に原子爆弾が落とされ、たくさんの方がなくなり、今でも多くの方がその後遺症に苦しんでいます。

今年の夏は、本来であれば、東京でオリンピックが開催され、長崎市に原子爆弾が落とされた8月9日が、東京オリンピックの閉会式の日でした。東京でオリンピックが開催されるのは、今回で2回目です。1回目は今から56年前の1964年でした。しかしさらにその24年前の1940年に東京でオリンピックが行われる予定だったのです。せっかくオリンピックの開催が決まっていたのに辞退してしまいました。「幻の東京オリンピック」と呼ばれています。そこで別の国で開催することになったのですが、結果的にはその年はオリンピックが行われませんでした。

なぜでしょう？そう、世界が平和でなかったからです。日本をはじめ、世界のあちこちで戦争が起こっていたのです。そして、この「幻の東京オリンピック」の5年後1945年8月9日に、長崎に原爆が落とされたのです。

オリンピックは、「平和のシンボル」と言われます。そもそもオリンピックは、「どんな差別もしない、させないこと」「スポーツを通して友情を育み、互いに理解し合うこと」、そして「平和でよりよい社会を作ること」を目的として開催されます。つまり、世界が平和でなければオリンピックはできないのです。

今、世界は決してすべてが平和であるとは言えません。けれど平和を願う人は世界中でたくさんいます。すでに皆さんに配られている長崎新聞には、佐々中学校1年の堤さんの「長崎は平和な未来の発信地」という俳句が掲載されています。原爆が落とされた長崎に生まれ育った私たちは、原爆の悲惨さと平和の尊さを世界中の人に伝え発信することにより、平和な世界、平和な未来を作り上げる責任があります。

今年の8月9日は、平和集会は実施できませんでしたが、長崎で生まれ育った私たちは、8月9日という日を大切に、真剣に平和を考える日に、これからもしてほしいと思います。

戦後75年が経過し、その悲惨な体験を直接聞くことが難しくなっている今こそ、しっかりと戦争や原爆について学び、語り継いでいくことの大切さを感じています。また、戦争のない平和な世の中をつくる第一歩は、相手を思いやる「あたたかい心」を醸成することです。学校でも、子供たちに豊かな心を育て、人権意識を高めていけるよう今後とも努めてまいります。